

## ③2山国川床上浸水対策特別緊急事業（平田・戸原地区）

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局  
山国川河川事務所

**キーワード** 床上浸水対策、景観形成、治水効果の発現

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成24年の九州北部豪雨災害を受け、平成25年より進めてきた山国川床上浸水対策特別緊急事業。当該地域が景勝地として有名な地域であることを考慮し、景観ワーキング等を開催して学識者の助言をいただきながら、野面石積み等の採用により良好な景観を形成し、治水対策と景観の両立を実現した点や、平成29年の九州北部豪雨等では浸水家屋ゼロとなり、事業効果が発現された点が評価された。

### 1. はじめに

山国川流域は、「名勝耶馬溪」及び「耶馬日田英彦山国定公園」の指定を受け、山国川本川も「山国川筋の景」として名勝に位置づけられており、景勝地（「青の洞門」、「競秀峰」、「一目八景」等）を数多く有し、美しい自然環境が特徴的な河川である。

### 2. 事業の概要

平成24年7月の九州北部豪雨で被災した山国川中流部において、「山国川床上浸水対策特別緊急事業」を平成25年度より5カ年での緊急治水対策として実施し、平成30年6月に河道掘削、築堤、護岸等の整備が完了した。

事業実施にあたっては、流下能力の向上に加え、特に「景観」に配慮した整備を実施することが重要な課題であったため、景観検討体制を構築し、「多自然川づくりアドバイザー会議」、「景観ワーキング」を開催し、学識者の方々から、必要な改修断面を確保しつつ、景観や環境に関する川づくりへの助言を頂きながら整備を行った。

平田・戸原地区では、浸水の一因となった大正時代に築造された長さ81.8mの5連アーチ石橋で、耶馬溪橋、羅漢寺橋と併せて耶馬3橋の1つである「馬溪橋」を存置した流下能力向上対策と併せて、周辺景観に配慮した川づくりを実施した。

### 3. 事業の成果

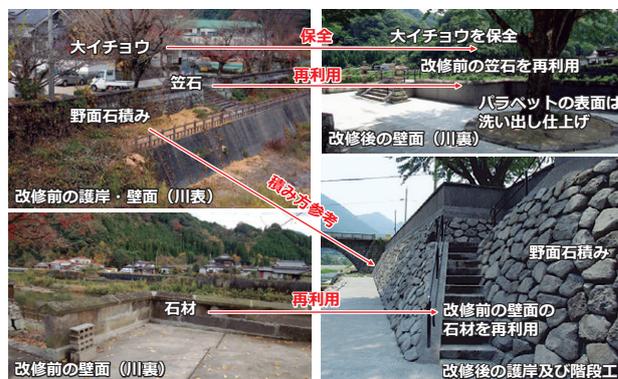
馬溪橋周辺の護岸については、既設護岸に用いられた野面石積みを採用し、パラペット部は石に近い風合いとするための洗い出し仕上げ、既存の大銀杏については、保全することとし、できるだけ既存の特徴的な景観要素を継承する整備を行った。施工にあたっては、明度を抑えたり、コンクリートが出来るだけ表面に出ないように工夫や、中津市の景観条例に定められた色（ダークブラウン）の材料を採用するなど、周辺景観との調和を図っ

たことで、景勝地としての観光資源を確保することができた。

また、事業実施中の平成29年7月九州北部豪雨、及び事業完了後の平成30年7月豪雨の2回、洪水が発生し、柿坂水位観測所において、平成29年7月に観測史上第3位、平成30年7月に観測史上第4位の水位を記録したものの、両洪水ともに浸水被害はなく、本来の目的である治水効果も発揮した。



平田・戸原地区の完成状況



整備の概要

### 4. おわりに

山国川の河川整備は、観光・地域振興の一助となる要素が非常に大きいため、河川環境との調和を図り、良好な河川空間を創出する整備を行っている。

現在、流域市町等と連携して、沿川のサイクリングロードを基軸とした水辺拠点整備等のかわまちづくりの検討を行っているところであり、今後も地域の安心・安全はもとより、流域の観光・地域振興の一助となるよう取り組んでいきたい。

賛助会員 (株)川原建設、九州建設コンサルタント(株)